

仏様のおはなし新シリーズ第87集 「救う」とは

「阿弥陀(あみだ)如来(にょらい)の本願(ほんがん)は かならず救(すく)うまかせよと

南無(なむ)阿弥陀仏(あみだぶつ)のみ名(な)となり
たえず私(わたし)によびかけます」

皆(みな)さん、こんにち。いま読(よ)ませて頂(いただ)いたのは「拝読(はいどく) 浄土(じょうど)真宗(しんしゅう)の教(きょう)おしえ」の中(なか)の浄土(じょうど)真宗(しんしゅう)の救(すく)いのよろこびの冒頭(ぼうとう)の文章(ぶんしょう)です。

「阿弥陀(あみだ)如来(にょらい)の本願(ほんがん)は
南無(なむ)阿弥陀仏(あみだぶつ)のみ名(な)となり
かならず救(すく)うまかせよと
たえず私(わたし)によびかけます」

阿弥陀(あみだ)さまが「かならず救(すく)う」とよびかけて下(くだ)さっている「救(すく)う」とは、
 どういうことでしょうか。病氣(びょうき)を治(なお)す、事故(じこ)に遭(あ)わせない、長(なが)生きさせる、
 等々(とうとう)、自分(じぶん)の願(ねが)いを満足(まんぞく)させてもらうことを「救(すく)う」と思(おも)つてい
 ませんか？

一般的(いっぽんでき)に「救(すく)われた」というと自分(じぶん)の願(ねが)いが叶(かな)つたときに使(つか)うことが少(すく)なくないので、仏(ほとけ)さまの「救(すく)い」も、そうなのだとか勘違(かんちが)いしておられるのでしょうか。この場合(ばあい)、願(ねが)いが叶(かな)うと「御利益(ごりやく)があつた」と言(い)い、願(ねが)いが叶(かな)わないと「神(かみ)も仏(ほとけ)もあるもんか」となるのでしょうか。これでは仏(ほとけ)さまの願(ねが)いは聞(き)こえてきません。

阿弥陀(あみだ)さまが、よびかけて下(くだ)さっている「救(すく)う」とは、私(わたし)の願(ねが)い、つまり仏(ほとけ)の願(ねが)いを聞(き)いて欲(ほ)しいとおしやつているのです。

仏(ほとけ)の願(ねが)いに氣(き)づかせ、信(しん)じさせ、浄土(じょうど)に往生(おうじょう)させ、成仏(じょうぶつ)させて、あらゆるいのちを救(すく)う生(いき)方(かた)を必(かならず)させるとよびかけ、はたらいて下(くだ)さっているのです。

私(わたし)たち人間(にんげん)の願(ねが)いは、自己(じこ)中心的(ちゅうしんてき)で、周(まわ)りを思(おも)いやることのない、我欲(がよく)に満(み)ちた願(ねが)いであることが少(すく)なくありません。その人間(にんげん)の願(ねが)いを満足(まんぞく)させるために仏(ほとけ)は本願(ほんがん)を建(た)てられたではありません。あらゆるいのちを救(すく)いたいという真実(しんじつ)の願(ねが)いに氣(き)づかせ、仏(ほとけ)の願(ねが)いを自(みずか)らの願(ねが)いとさせたいと、はたらいておられるのです。

「たえず私(わたし)によびかけます」と、365日(にち)24時間(じかん)休(やす)まず、よびかけ、はたらきかけておられるのです。私(わたし)の悩(なや)み悲(かな)しみ苦(くる)しみを知(し)り尽(つ)くしているからこそ、一時(いつとき)も私(わたし)から離(はな)れることができずに見(み)護(まも)り続(つ)けて下(くだ)さっています。

親鸞(しんらん)聖人(しょうにん)は浄土和讃(じょうどわさん)に

十方(じっぽう)微塵(みじん)世界(せかい)の
念仏(ねんぶつ)の衆生(しゅじょう)をみそなはし

攝取(せつしゅ)してすてぎれば
阿弥陀(あみだ)となづけたてまつる」

と、お示(しめ)し下(くだ)さいました。

阿弥陀(あみだ)さまは、「貴方(あなた)を、本願(ほんがん)を信(しん)じ念仏(ねんぶつ)するものに育て(そだて)、必(かならず)仏(ほとけ)にしますから、私(わたし)にまかせて下(くだ)さい」と南無(なむ)阿弥陀仏(あみだぶつ)のみ名(な)となつて呼(よ)びかけ、すべてのいのちにはたらいておられるというお示(しめ)しです。

私(わたし)の悩(なや)み悲(かな)しみ苦(くる)しみ、迷(まよ)いは限(かぎ)りなく深(ふか)いので、撰(おさ)めとつて捨(す)てないと誓(ちか)つてくださいます。



これからも南無(なむ)阿弥陀仏(あみだぶつ)とお念仏(ねんぶつ)申(もう)し
ながらの人生(じんせい)をご一緒(いっしょ)いたしましょう。